

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑧

江戸時代に四国遍路が庶民に広がる中、四国遍路を絵図面で視覚的に紹介する様々な絵図が作られた。

江戸時代中期の1763(宝暦13)年に大坂において刊行された細田周英の木版墨刷り折畳み式の大型の「四国徧礼絵図」は、現存する四国遍路絵図では最も古く、詳細な内容を誇るものとして知られている。

予予和島領風部(おろしべ)村(宇和島市津島町)の虎屋喜代助。彫刻は備前和氣郡香登本村(かがとほんむら、岡山県備前市)の立蔵直貫とある。

予予和島領風部(おろしべ)八十八カ所とその道筋、札所の距離、中央には弘法大師御影と四国遍路の由来などが記載されている。彩色された遍路道は、歩き遍路のルートが示されている。

四国徧礼(へんろ)絵図

篠山参詣賑わい物語る

真念のガイドブック「四

畿地方から四国を見たような縦長の構図で、四国霊場

観自在寺(愛南町)を参詣する習わしがあり、多くの遍路で賑わった。

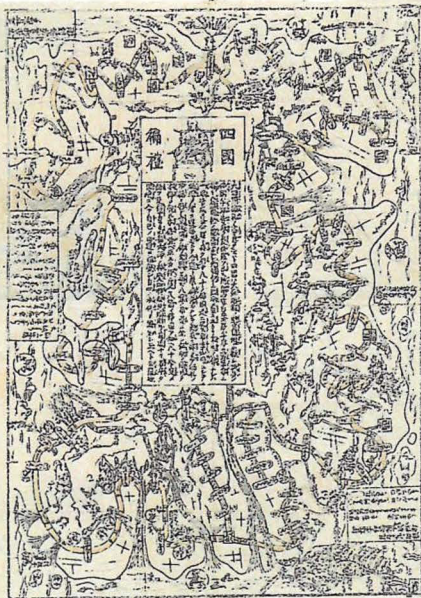
篠山を参詣する習わしがあり、多くの遍路で賑わった。

と考えられる。絵図作成者の情報が記されており、遍路による篠山参詣が盛んだったことを示すとともに、四国内で発行された遍路絵図としても貴重である。

観自在寺(愛南町)を参詣する習わしがあり、多くの遍路で賑わった。

観自在寺(愛南町)を参詣する習わしがあり、多くの遍路で賑わった。

と考えられる。絵図作成者の情報が記されており、遍路による篠山参詣が盛んだったことを示すとともに、四国内で発行された遍路絵図としても貴重である。



伊予国内の遍路道(篠山道)で発行されていた江戸時代の四国遍路絵図。県歴史文化博物館で常設展示中

専門学芸員 今村賢司
八月2回掲載します